第8回 化学物質の内分泌かく乱作用（いわゆる環境ホルモン作用）に関する国際シンポジウム 2005

▶2005年12月4日（日）～6日（火）
▶沖縄ハーバービューホテル
▶沖縄コンベンションセンター

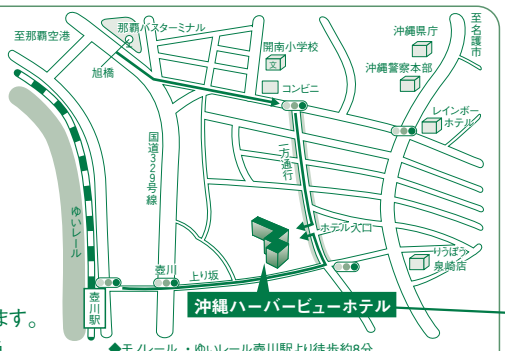
■主 催　環 境 省　　■後 援　沖縄県、沖縄県教育委員会、那覇市、宜野湾市、本部町

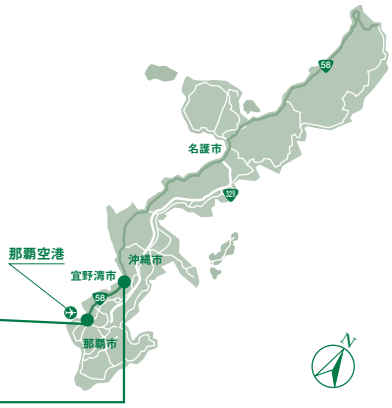
International Symposium on Endocrine Disruption 2005

一般向けプログラム

2005年12月4日（日）
沖縄ハーバービューホテル

〒900-0021
沖縄県那覇市泉崎2-46
TEL: 098-853-2111
URL: http://www.harborview.co.jp/
▶アクセスはホームページでもご覧いただけます。
※12月4日当日は、那覇マラソンのため交通規制が行われますので、ご留意ください。

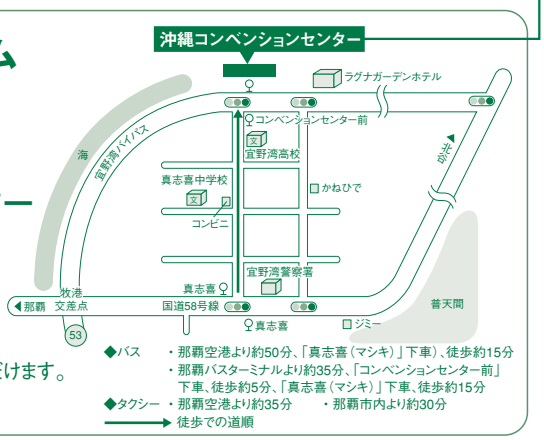




専門家向けプログラム

2005年12月5日（月）
6日（火）
沖縄コンベンションセンター

〒901-2224
沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1
TEL: 098-898-3000
URL: http://www.oki-conven.jp/
▶アクセスはホームページでもご覧いただけます。



参加申込方法

① インターネットからの申込み
シンポジウムのホームページから、直接お申込みください。
http://www.congre.co.jp/eed05/

② FAX、はがきでの申込み
氏名、住所、電話、FAX番号、参加希望日を明記の上、下記運営事務局（株式会社コングレ内）宛にお申込みください。

◎ 参加費は無料です。

〈参加申込締め切り〉
平成17年11月18日（金）
（申込み多数の場合は、先着順となります。）

*開催日によって会場が異なりますのでご注意ください。

参加申込み・お問合せ

株式会社コングレ内
「第8回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム」運営事務局
〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 6F
TEL: 03-3263-5394　FAX: 03-5216-5552
E-mail: eed05@congre.co.jp

シンポジウムの内容に関するお問合せ

環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課
〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
TEL: 03-3581-3351（内線6354）　FAX: 03-3580-3596
E-mail: eri_muto@env.go.jp

プログラム

Program

一般向けプログラム

12/4（日）
沖縄ハーバービューホテル

14:00 ▼ 16:00

●開会挨拶

●パネルディスカッション

「今、自然界で何が起こっているのか?～内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか～」

コーディネーター：北野　大（淑徳大学）

「野生生物にどんな変化が起きているのか?」、「どんな物質が内分泌かく乱作用を持っているのか?」について、最新の報告をもとに話し合い、さらに、「どうすれば生態系を守ることができるのか?」について提言していきます。

専門家向けプログラム

※日英同時通訳が入ります。

12/5（月）
沖縄コンベンションセンター

9:30 ▼ 11:45

セッション1「疫学研究における問題点」

コーディネーター：遠山　千春（東京大学）

環境化学物質の疫学データ解釈の際に必然的に伴うかく乱要因の問題、感受性が高いゆえに特別の関心を払うべき小児の健康影響の大規模コホート研究の戦略について、日米の第一線で活躍する研究者を招き、議論を深めていきます。

13:00 ▼ 15:15

セッション2「リスクコミュニケーション：現状と課題」

コーディネーター：内山　巌雄（京都大学）

リスクコミュニケーションの概念は、その意図するところが専門家の間においてもまだ十分に共有されていません。今回は、リスクコミュニケーションの発展に指導的な役割を果たしている方々から、化学物質に限らず総論的観点より、歴史的展望、現状と課題についてお話しいただき、リスクコミュニケーションについての理解を深めていきます。

15:30 ▼ 17:45

セッション3「群集レベルまたは生態系レベルでの人間影響評価」

コーディネーター：花里　孝幸（信州大学）

生物群集は生き物たち相互の微妙な関係によって維持されていますが、その関係は、漁業を目的とした放流や、環境中への化学物質の排出といった様々な人間活動によってかく乱されています。このかく乱に注目し、生態系に及ぼす人間活動の影響を考えていきます。

12/6（火）
沖縄コンベンションセンター

9:30 ▼ 11:45

セッション4「内分泌かく乱作用解明の新たな切り口」

コーディネーター：渡邉　肇（自然科学研究機構）

化学物質の内分泌かく乱作用については、化学物質のホルモン受容体への作用を中心に研究が進められてきましたが、ホルモン受容体以外の作用点も明らかになりつつあります。内分泌かく乱作用を細胞、分子レベルで明らかにするための取り組みについて最新の研究成果を紹介します。

13:00 ▼ 15:15

セッション5「内分泌かく乱作用に関する試験法開発」

コーディネーター：井口　泰泉（自然科学研究機構）

経済協力開発機構（OECD）を中心に、ラット、鳥類、両生類、魚類、無脊椎動物を用いた試験法、化学物質の定量的構造活性相関、*in vitro*での受容体結合試験等が開発されています。試験法開発の進捗状況および今後必要と思われる試験法についてこのセッションでは論議します。

15:30 ▼ 17:45

セッション6「化学物質のリスク評価に関する最近の動向」

コーディネーター：白石　寛明（国立環境研究所）

化学物質のリスク評価のためには、総合的な有害性評価、及び暴露評価が必要です。有害性評価においては、内分泌かく乱作用のみではなく、様々な作用を考慮する必要があります。このセッションでは、化学物質全般のリスク評価に関して、諸外国での取り組み等、最近の動向を紹介していきます。

招聘スピーカー（予定）

Speakers as of September 30, 2005

Patric Amcoff	OECD VMG-non animal Secretariat
David Bellinger	Harvard Medical School, USA
Brenda Eskenazi	University of California, Berkeley, USA
Anne Gourmelon	OECD VMG-eco Secretariat
Thomas H. Hutchinson	AstraZeneca R&D, UK
Sean Kennedy	National Wildlife Research Center, Environment Canada, Canada
William Leiss	University of Calgary, Canada
Mike Roberts	DEFRA, UK
Charles Tyler	Exeter University, UK
Karen Whitby	EPA, USA
Peter Wiedemann	Federal Research Center Juelich, Germany
吉川　肇子	慶應義塾大学
崎田　裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー
須之部友基	千葉県立中央博物館
徳田　雅明	香川大学
森下　哲	環境省化学物質審査室長
安間　繁樹	農学博士
山本精一郎	国立がんセンター